

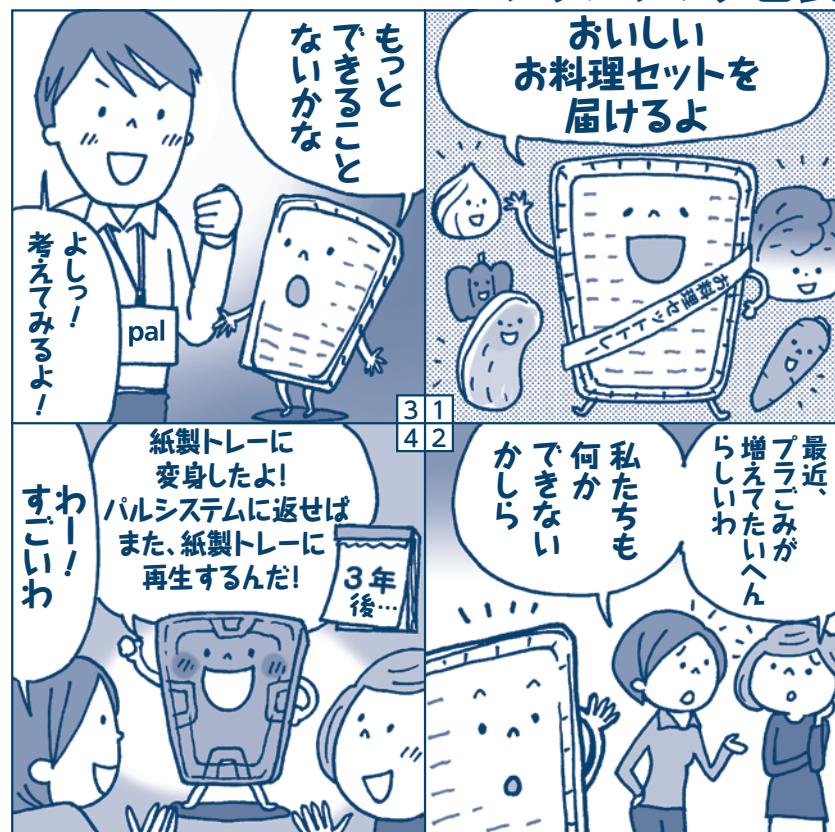
食べものナビゲーター

「今さら聞けない」「ちょっと気になる」…食についての基本のキを、毎月1回紹介します。

7月

vol.145 2023年6月19日発行

つくる人、つかう人、共に考える プラスチック包装



「食べものナビゲーター」はパルシステム東京のホームページでも公開
6～7月はパルシステム東京の「環境キャンペーン」月間! 容器包装の多くには、プラスチックが利用されていますが、環境などへの影響が問題視されています。パルシステムでは、商品を通じたプラスチック削減に取り組んでいます。

プラスチック増加による地球環境への影響

世界のプラスチック生産量はこの50年で20倍以上に増えており、今後さらに、増加傾向にあります。生産量の増加に伴い、近年ではプラスチックごみが増え、地球環境に大きな影響を与えています。

① 資源の枯渇

現状のままプラスチックの生産を続けると、約50年後には原料の石油資源が枯渇するといわれています。

② 地球温暖化

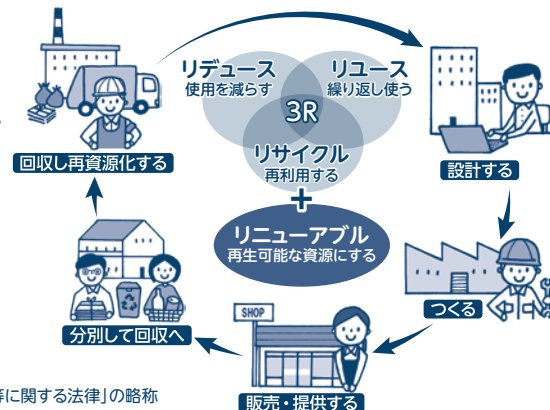
プラスチックは焼却すると、温室効果ガスやダイオキシンが発生し、気候変動や生態系に影響を与えます。

③ 海洋汚染

海に流れ込んだプラスチックゴミを海洋生物が誤飲し、生態系に影響を及ぼします。2050年には魚より海に流れ込んだプラごみの方が多くなるという報告も。

「プラスチック資源循環促進法」が施行

このような状況を受け、日本でも、2022年4月から「プラスチック資源循環促進法」*が施行されました。プラスチックを廃棄前提とせず、資源として社会の中で循環させていこうというものです。しかし、実現には、さまざまな課題が山積しています。



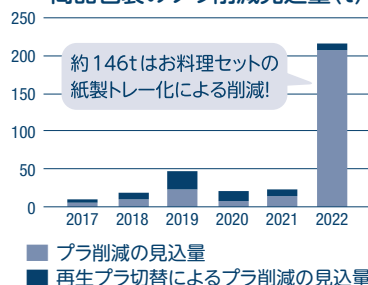
※「プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律」の略称

パルシステムが取り組むプラスチック削減

パルシステムでは、3R(リデュース・リユース・リサイクル)の考え方にに基づき、資源循環の取り組みを進めています。

その一環として、力を入れているのがプラスチックの排出量削減です。商品の容器包装の見直しを行い、2022年度は約215tの削減となる見込みです。

商品包装のプラ削減見込量(t)



商品の容器包装見直しの例

1 包装サイズの見直し・軽量化

しめさば(国内産)
サイズを20mm縮小することでプラ重量30%の削減
年約1.1t削減

紙類
外袋の持ち手部分の指穴をなくして縮小し、ティッシュは取り出し口のフィルムを除去しました
持ち手を減らしてプラ削減
年約3.0t削減

2 再生原料などへの切り替え

直火炒めチャーハン(産直米)
プラ重量の28.1%を再生PET(使用済みプラ原料)に変更
年約3.1t削減

産直大豆の厚あげ
再生プラで作ったシートをはさんだ3層構造のトレーに切り替え
年約4.7t削減

3 包装資材の見直し

お料理セットトレー
紙製トレーに変更でプラ削減
年約146t削減
2022年7月よりプラスチックから紙製トレーに切り替え! 回収後、リサイクルして再度、紙製トレーとして利用します。プラ使用量は25g→7gへ。7割削減!

みんなのできるプラ削減! まとめ袋、米袋もパルへ戻そう

リユースびんや牛乳パックなどのリユース・リサイクル対象商品の平均回収率は54.9%です。特に資源プラスチック類(カタログや商品のまとめ袋)・米袋の回収率はまだまだ低い水準にあります。

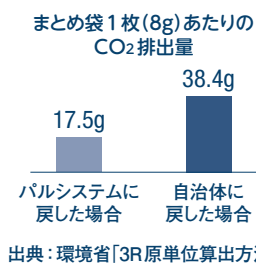


※回収率は2022年度(お料理セットトレーは除く)

パルシステムに戻すとなぜ良いの?

回収されたプラスチックをゴミ焼却の燃料として利用する*1 自治体もありますが、パルシステムで回収したプラスチック類は、同じ材質のプラ原料にリサイクルされます*2。このため、CO₂の排出量は50%以下に抑えられます。

※1) 焼却時の熱エネルギーを回収する「サーマルリサイクル」方式
※2) 回収物を新たな製品の原料として再利用する「マテリアルリサイクル」方式



出典: 環境省「3R原単位算出方法」

新しい「環境・エネルギー政策」を策定!

パルシステムでは、2023年3月に新たな「環境・エネルギー政策」を策定しました。その具体的なアクションの一つとして、プラスチック製容器包装の排出量を2030年度に25%削減(2021年度比)する目標を掲げています。今後も、環境に配慮した商品づくりをメーカー、組合員とともに考え、取り組みを継続していきます。

パルシステムの環境・エネルギー政策の取り組み

Think from Kitchen

キッチンから考える?

Vol. 85

発行 / 2023年6月19日

今月のテーマ

食ナビ編集チーム 推し!
隠れた人気商品

注文がマンネリ気味で…というみなさん、パルシステムには“知る人ぞ知る”こだわり商品が、たくさんあります。モノみな値上がりの今だからこそ、価値ある商品選びをしませんか。



有機野菜セット

旬野菜で1週間まかなえる8品セット、定番野菜の5品セットあり



たい肥や有機肥料で土づくりを重視。地域の資源を循環させる農法で、自然環境への負荷が少なく生物多様性を保てます

サステナブル

安全・安心

すべて有機JAS(オーガニック)認証を取得。種まき前2年以上と栽培期間中の畑に化学肥料・化学合成農薬を使わない*ので、安心して皮まで利用できます

※有機JAS認証で使用可能資材を除く

見ため

多少の見た目の悪さや大小のバラつきは許容範囲としてお届けしています。しかし、虫害などには一定の基準を設け、産地やセットセンターで検品しています。

同じ野菜が届くのは、四季の畑からでは自然のこと。旬の野菜をおいしく食べる工夫を考えるのも、楽しみのひとつです (23号さん)

バラエティー

有機栽培では病害虫対策のため、少量で多品種を栽培するのが一般的。旬の時期には同じ野菜が続くこともありますが、珍しい野菜が届くことも。食べ方つきなので、ぜひ、お試しください。

オーガニックのおいしい野菜がたっぷりうれしい。ほうれん草も甘くて、ぜいたくな気持ちに(ちえちさん)

味が濃くておいしい!(ぼぶこさん)

味

有機野菜は病害虫や雑草対策を中心に、通常より多くの手間やコストがかかるため一般より高めですが、セットなので割安。天候や病害虫のリスクも大きくなりますが、豊かな生態系を残す農業を続けるためにも応援をお願いします。

コスト

パルシステム連合会 野菜課から

気温が高い夏は、傷みや虫害などが発生しやすくなります。温度管理や検品の徹底に努めていますが、配送中に傷みが進行することもあります。お気づきの点はお問い合わせ窓口へご連絡ください。



部門別 注目商品はこれ!

ランキングは2023年1月~3月/パルシステム東京組合員の注文数



食べて
美ら海を守る

- 恩納村太もずく 1位
- 恩納村の早採れ糸もずく 3位



強いぬめりとシャキシャキの歯ごたえが魅力の恩納村のもずく。商品代金の一部にサンゴの植え付けに役立つ費用が含まれています。もずくの生育に欠かせないサンゴ礁は、2000年代に入り温暖化の影響などで荒廃が進んでいます。パルシステムではサンゴ礁の保全活動に取り組む恩納村漁協と産直提携し、漁協の「里海づくり」を応援しています。

16,308本のサンゴを植樹(2022年度/パルシステム)。産地ツアーでは組合員もサンゴの苗づくりに参加(画像は2019年度開催「沖縄Eco&Peaceツアー」で)



- 3種の海鮮丼
(マグロ・甘えび・秋鮭) 10位



すぐ解凍でき、手軽にミニ海鮮丼を楽しめる。



高品質で使い勝手のよい肉が
お手ごろ価格で

- 産直豚カタ・モモ切落し徳用(310g) 5位
- 産直豚バラ切落し徳用(280g) 6位



「切落し」というと余った肉の寄せ集めのようなイメージですが、ブロック肉から「切落し」製造し、端まですべて使うため、質のよい産直肉を手ごろな価格で楽しめます。厚さは約3ミリ、大きさについての基準はないので、多少のバラつきはありますが、炒め物や煮物など幅広い料理に活用できます。

消費期限はお届け日含む3日間

炭酸ガス30%、酸素70%のガスパック包装。生菌数の増殖を抑制しながら、鮮度を保って冷蔵でお届け。



- 産直豚カタロース
切落し(180g) 16位



脂身と赤身のバランスがよく、うまみの濃いカタロース。しょうが焼きや煮物などで肉のよさを確認。



手打ちのような
モチモチ感

- 産直小麦の 200g×3 6位
- 冷凍うどん 200g×5 8位



一般には照りやコシを出すために加工でんぷんを使用する場合がありますが、原料はJAおとふけの産直小麦、塩、水だけ。シンプルだからこそ、小麦の味が引き立ちます。離乳食などにも。

だいたいころう
ツナと梅かつおおろしの
冷やしうどん



ちよいと推し 部門別ランキング 1位

なめらか絹豆腐
小分けパック

惣菜食品



飲料

産直大豆
無調整豆乳(AB)

お料理
セット 産直豚肉の
チンジャオロースセット



●配達箱に再生プラ導入 8年でプラ使用量25%削減へ

底板と上枠に
再生材を使用



パルシステムでは、2023年度から段階的に、配達用の通い箱をリニューアルし、プラスチック使用量を大幅に削減します。発泡スチロール製の保冷箱は、再生プラスチック原料を100%使用したものへ、折りたたみコンテナも部分的に再生プラスチックを採用します。

これにより、2030年度までの8年間で累計763tのプラスチック削減を目指します。

参加者募集! 自由研究のテーマにも

「親子科学実験教室」開催!

サイダー作りや、水性ペンの色のしくみを調べる実験を行います。ぜひご参加ください!

開催日: 2023年8月4日(金) ①10:15~12:05 / ②13:45~15:35

場 所: パルシステム商品検査センター(京王線「稲城駅」徒歩15分・JR南武線「南多摩駅」よりバスまたは徒歩20分)

参加費: 無料

対象年齢: 小学生(親子で参加できる方)

定 員: 40組(午前・午後各回20組) ※応募者多数の場合は抽選

締 切: 7月17日(月) 12:00

検査センター
に来てね!



詳細・お申込みは
こちら

